



2025年

10 月

中国四国農政局
広島県拠点

北広島町自慢の特産品 ～ 芸北りんご ～

北広島町は、広島県の北西部に位置し、2005年に芸北町・大朝町・千代田町・豊平町の4町が合併し誕生した町です。旧芸北町は、安芸の国（広島）の北部に位置するという地名の由来もあり、標高が高く、昼夜の寒暖差も大きいことから、約30年前から冷涼な気候を利用してりんごの栽培が始まりました。この地域で栽培されるりんごは、身が締まって歯応えが良く、味が濃いのが特徴で「芸北りんご」として特産品になっています。

収穫・出荷のシーズンを迎え、同町でリンゴ栽培をされている JA広島市「芸北りんご部会」の上新博則部会長と奥様に今年の生育状況等のお話を伺いました。

「芸北りんご部会について」

「芸北りんご部会」は、りんご生産者及び法人の会員16戸で構成し、栽培技術や品質の向上のため、情報交換や講習等を行い、「芸北りんご」の魅力ある産地作りを目指しています。

部会員は30歳～70歳代ですが、70歳代が多く、後継者育成が大きな課題となっています。



生育中の人気品種「ぐんま名月」



りんご畑での上新部会長ご夫妻

「今年の芸北りんごについて」

「ふじ」を主品種として「つがる」「陽光」「シナノスイート」「ぐんま名月」「秋映」等々、収穫時期が異なる十数の品種を栽培しています。

今年は猛暑続きの高温で色づきが遅い傾向ですが、果樹カメムシ、鳥獣害の被害が比較的少なく、良好な品質のりんごの収穫を見込んでいます。高温のうえ昼夜の温度差が少ないため、スプリンクラーによる散水回数を増やすなど対策も講じました。

収穫は8月下旬から11月中旬頃まで続きます。収穫後は、JAを通じて県内のスーパーでの販売、直売所、無人市、近隣の道の駅などで販売されます。

また、ふるさと納税の返礼品としても採用されています。

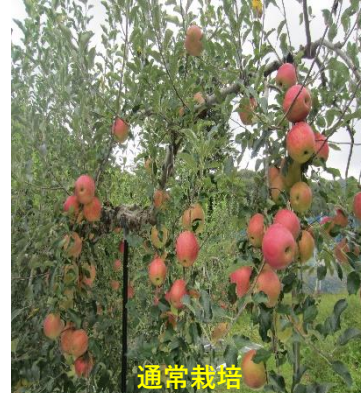
「今後の展望について」

上新部会長は、「後継者育成に取り組みながら「ぐんま名月」など、人気のある品種の栽培に力を入れ、丁寧な手入れを維持しつつ「芸北りんご」の出荷量を増やし産地の知名度を上げたい。今も「芸北りんご」を使用した加工品はあるが、他地域の加工場で製造している。将来的には地元で加工製造施設の設置が必要と思う。」と「芸北りんご」のブランド化に向けた構想を話してくださいました。

今後、「芸北りんご」の秘かなブーム到来を期待しています。



高密度低樹高（新わい化）栽培



通常栽培

高密度低樹高（新わい化）栽培は、植栽本数を通常のわい化栽培（果樹の高さを低くし、植え付けの密度を密にして栽培する方法）より3倍植えることができ、木が巨大化せずに垣根状に生えるため、機械導入が可能で高度な剪定を必要としないことから、早期成園や多収、高品質、省力などが図れます。

編集：中国四国農政局 広島県拠点

〒730-0012 広島市中区上八丁堀6-30

TEL (082)228-9676(内線306)

<農政局HP>

<https://www.maff.go.jp/chushi/>

◆ニュースレターに関するアンケートにご協力ください。<https://www.contactus.maff.go.jp/j/chushi/form/nl180401.html>